

# 群馬県現代俳句協会会報

No. 68

2022年  
6月10日発行

## 雑感

### 心のままに……

堀越 胡流

いつまでもコロナ禍が終息ならず句会もままならぬ昨今ですが、会員の皆様は不自由で欲求不満の毎日かと思えます。メールやファックスなど使いA T句会などが多くなり、私などついてゆけず困惑しています。紙上句会で何とか続けておりますが、座の文学という俳句本来が崩壊しつつあるようです。これはコロナが終息すれば元の姿になることでしょう。

さて、各県の現俳の会員数が減り本部が慌ただしくなっておりますが、群馬県もご多分に漏れず高齢化で会員は減少の一途です。四苦八苦しても解決の糸口さえ見つかりません。しかしながら百名近い会員がおります。会員同士が楽しく有意義な活動をしていれば仲間が集まるのでは、群馬現俳に魅力を持って頂けたら良いのですが、会員の皆様にお知恵を頂き改革が出来るかなどと他力本願のようなことを考えております。

私の俳句ですが、毎月百句を目標に作句しております。勿論駄句の山ですが、作らなければ始まらないと思っております。

作り方は自分の来し方（体験、経験）また自分の知っている範疇の中のことで、それらを縦、横、斜めから眺め考えて作る他はないと思っておりますので、自分でもどんな句が出来るか予想もつかない。それが面白い。誰のために作るのでもなく、何のために作るのでもない。自分を無にして作っているような気がします。句会や大会で認められようがスルーされようが、それが自分の俳句であると自負を持ちたい。しかし、一人歩きをさせた後は読者の自由ですから、煮て喰われようが焼いて喰われようが知ったことではない。客観写生であれ主観俳句であれ観念俳句であれ、出来たものは全て自分の分身と思うようにしています。月五回の句会は（二句会はコロナで紙上句会に）全て合評句会で皆様の意見を聞く。同じ人生を歩んだ人は一人もいない、年齢の差、男女の別、貧富、学歴も関係ない。あらゆる観点から句を読み、意見を聴くことが出来る、それがまた楽しい。錆びつく思考を少しでも遅らせようと思っております。

句会は私にとって重要な場である。それぞれの年齢に相応しいそれぞれの句があつて面白い。ただごと俳句も大いに結構。俳壇に打って出る句づくりをすることも素晴らしい。俳句を通じて句会で切磋琢磨できればこれほど楽しいことはないと思いません。

（群馬県現代俳句協会副会長）

# 令和四年度定期総会中止

令和四年四月十日（日）に予定されておりました群馬県現代俳句協会定期総会は感染症コロナウイルス蔓延防止に鑑み中止となりました。

令和二年、三年に次いで三回目の中止です。会員各位には文書にて令和三年度事業報告、会計報告並びに監査報告、令和四年度事業計画案を郵送、会員全員の承諾を得ることができました。

第三十六回俳句大会につきましては紙上俳句大会に変更しました。困難な状況ですが会員、会員外の五十八名から実に百九十の投句がよせられました。結果につきましてはつぎの通りです。

## 第三十六回俳句大会俳句作品

### ◆現代俳句協会賞

鐘の音をいびつにしたる空つ風

堀越 胡流

### ◆群馬県教育文化事業団賞

笹鳴きといふ静けさに歩を入るる

清水 里子

### ◆上毛新聞社賞

もともとの一人にもどり豆を撒く

斎藤 一平

### ◆毎日新聞社前橋支局賞

ほどほどに生きて卒寿や実万両

水村 幸雄

### ◆群馬県現代俳句協会賞

冬帽子この世の釘にかけしまま

狩野 優子

### ◆入賞

小気味よき嫁の返事や春隣

橋本 雅子

飛ぶ鳥も地に立つ吾も春夕焼

奈良千恵子

幼らの月へ漕ぎ出す半仙戯

本田 巖

牛小屋に牛の貌出す涅槃西風

武井 波真

泣くために流すシャンソン春の雪

田中 恵子

日の差して五百羅漢も春の貌

保泉 初音

出来る事見つける余生ふぐり咲く

小林けさ子

春シヨールふさぐ心を包み込む

田中 恵子

天寿まで母の背を追い麦を踏む

斎藤 一平

退院の腹にしみ入る根深汁

水村 幸雄

草青む脚萎え妻に踏ませたし

野村 紘一

二人して始祖の貌して日向ほこ

赤堀 琴代

過去未来その真ん中の春日和

芝根 南

### ◆一句抄

お遊戯をひろうする園児梅香る

糸井 爽子

おむすびのやうな一日や春炬燵

石原 玲子

住み古りて灯の親しさや虫時雨

今井 妙

知らぬ間に髭を楽しむ孫の春

高田多加江

大根太し吾子抱くように家路かな

白井しげみ

雑念を吐き出して行く春一番

大沢 友江

妻ひとり声を張り上ぐ鬼やらひ

石原 道明

艶やかな八重椿とて疲れます

永沢 瑞保

穂絮みな放下し芒呆けけり  
 寒の水ごくりと呑んで歩を伸ばす  
 庭隅の小さき起伏や春を待つ  
 遠き日の蚕時雨母の眠る郷  
 採寸の少し大きめ春を待つ  
 月光に心瀧くごと紙漉女  
 鍵穴を鍵にてなぞる春の月  
 芽吹きゆく雑木の放つ鳥つぶて  
 母種囁む音爽に兜太の忌  
 祖母祖父に切干し大根匂ひ似て  
 ぼつねんとバスに揺られし月朧  
 山頂への足跡を追ふ多喜二の忌  
 梅遅々と風の痛さの残る径  
 薄氷や映る枝先色を付け  
 はにかみやみそつばぼうず一年生  
 涅槃西風猫も家出をするという  
 吾子逝きて十一年や椿落つ  
 指切りのひとつ忘れぬ冬の虹  
 ワクチン三度雪の予報をもて余す  
 春雪や和紙が目覚むる墨の色  
 かたことのことばはぐくむちのあゆみ  
 凍てゆるむ馴染まぬ杖を持て余す  
 春泥や老いの歩幅のままならず  
 巢作りをしたただけなのかつばくらめ  
 重き足引きずりをれば鳥雲に

相澤 礼子  
 清水 文子  
 横田真智子  
 長谷川瑞恵  
 秋元 俱子  
 河合 秀美  
 細野 彩扇  
 大島 知子  
 角田爽丘子  
 新井 和夫  
 真鍋 俊男  
 大島 和  
 林 宣子  
 柴崎 光昭  
 佐藤 愛子  
 朝倉 裕子  
 菊池八重子  
 関口 衣子  
 矢澤 正夫  
 三島 梅子  
 阿久沢長道  
 久米 桂子  
 石井 紅楓  
 鬼形 瑞枝  
 二本松よし子

かくし包丁入れ祖母に煮る春大根  
 老人二人欲しき物なし小春かな  
 土の中いのちあるらしあたたかし  
 風に散る花の境地へもう一歩  
 鴨の羽流れるような白い紋  
 ひと言にこころふはりと春の土  
 春寒し顔を小さく洗いけり  
 三人の男の子育てしはうれん草  
 初夢に出でしあの人今どこへ  
 みどり児の小さき手の中春の雪

内田 豊子  
 儘田富貴子  
 松島 啓子  
 中里 麦外  
 下城 雅子  
 久保田桂子  
 高橋 正彦  
 原田 要三  
 安富 耕二  
 小杉満喜子

(二句抄の掲載は投句順)

## 令和四年度行事予定

### ◆夏の紙上俳句大会

### ◆秋の吟行会

令和四年十月二日(日) 前橋市・大室公園

### ◆研修句会

令和四年十一月六日(日) 前橋市・県庁昭和庁舎 一時半

申し込み先 事務局・河合 090-3902-7053

### ◆群馬県現代俳句協会大賞募集

未発表作品二十句 締切り令和四年九月三十日(金)

いずれも詳細につきましては一月十日発行会報、案内書参照  
 問い合わせ先 事務局・河合

# 令和三年度 収支決算報告

令和三年度（令和三年一月一日から令和三年十二月三十一日）における収支決算の内容をご報告させていただきます。

収支の内容は、左記の通りとなります。

令和3年度 収支決算報告書

令和3年1月1日～令和3年12月31日

群馬県現代俳句協会 (単位 円)

取 入	金 額	備 考
前年度繰越金	876,668	
助成金	190,000	2,000×95名
県協会費	94,000	1,000×94名
俳句大会・吟行会・大賞・研修会	252,000	俳句大会役員料・吟行会参加費他
利子・寄金	10,004	寄付原田要三氏
合 計	1,422,672	

  

支 出	金 額	備 考
俳句大会・吟行会・大賞費	136,044	賞金・賞品・謝礼他
印刷費	111,094	会報・詠草・成績表・コピー他
通信費	66,416	会報・詠草・結果・郵送他
事務・会議費	94,821	各種行事に伴う会議費用・用紙代他
交際費	944	弔電
合 計	409,319	

  

取 入	支 出	次年度繰越金
1,422,672 円	409,319 円	1,013,353 円

上記の通り報告します。

令和3年12月31日 会計幹事 田中恵子  
事務局長 河合秀美

会計監査報告書 監査の結果適正でした。  
令和4年1月17日 監 事 朝倉 裕子  
監 事 狩野 優子

## 第59回現代俳句全国大会

# 作品募集

投句締切は  
**8月1日**  
(必着)

現代俳句全国大会は、年に一度、現代俳句協会が主催して行う伝統ある大会です。協会員に限らずどなたでも参加できますから、例年にも増してたくさんのご応募をお待ちしております。

- ◆応募規定◆
  - 投句料3句一組・2千円、何組でも可。
  - ただし、新作未発表作品に限る。「3組9句同時投句に限り、6千円を5千円にいたします」
  - 前書き不可。所定用紙使用。〒、住所、お名前、電話番号、協会員・会員外の別を明記。投句料は普通為替、定額小為替(無記名で)、現金書留(必ず作品同封の事)、又は郵便払込(郵便局の青い払込取扱票をお使い下さい)加入者名・福岡県現代俳句協会、振替口座番号・01770141149862・振替払込受領書のコピーを投句用紙に必ず貼付してください。
  - 送付先 〒807-0827 福岡県北九州市八幡西区楠木2-6-12 現代俳句協会全国大会事務局 福本 弘明宛 ☎093-60216058
  - 締切 8月1日必着
  - 顕彰 協会の会員誌『現代俳句』に優秀作品を発表するほか、協会刊行物に採録。
  - 賞 大会賞、後援団体賞、特別選者賞、秀逸賞、佳作賞。
  - 全国大会 令和4年11月12日(土)午後1時より、JR九州ステーションホテル小倉〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野1丁目1-1 ☎093-5411711
  - 記念講演 平出 隆 先生(詩人、多摩美術大学 名誉教授)「蕪村を中心に」
  - 講評 中村和弘会長はじめ協会幹部
  - 懇親会 午後5時より(会費6千円)

# みんなの広場

柞葉の母の膝こそあたたかし  
冬の芽のどれも虚空に触れいたり  
願わねば叶わぬ願い返り花

狩野 優子

白井しげみ

正月のゴミ拾い行く背筋かな  
冬野菜わらの鉢巻出番待つ  
犬連れ的笑顔と合いし冬うらら

高田多加江

春眠や母の膝にて鬼になる  
弁解に汗をふきふき世の亭主  
ばば様の乙女心や寒椿

橋本 雅子

こんな所に失せしビー玉耕せり  
花弁さながら馬の舌なる紫木蓮  
春昼の音眠くなる古時計

清水 里子

薫風や父をこえよと抱き上ぐる  
梅干してほしてこの地を栖とす  
見はるかす河岸段丘春がすみ

落ちきって奈落の底の木の实踏む

温め酒生きてるだけで儲けもの

ルシフェルになるやも知れぬ冬の雷

多胡 五月

堀越 胡流

喋ること斯くも楽しき麦酒かな  
葉鶏頭ロックな曲を聴きたき夜  
下萌や喃語に相づち打ちてをり

久米 桂子

春めくや二つ用足す句座帰り  
飢ゑ知らぬ子等に語りて藜摘む  
手を上げて追ひかける子よ石鹼玉

朝倉 裕子

二人居の一日を惜しむ白障子  
雛飾るこの家いまも守りつぎて  
蜃気楼にんげんゆらぎつつ老いる

奈良千恵子

ふらここの残心という揺れを漕ぐ  
この星に上手に落ちて紅椿  
身に添えば水の匂いや藍浴衣

河合 秀美

雑煮椀湯気の中より海と山  
さえずりやときどきうつつときどきゆめ  
村人は失せまんさくの花盛り

## 私の一句

寒紅やあなたなしではいられない

高田多加江

夫の仕事は金型の試作で一ミリの千分の一の仕事で失敗出来ません。私はお弁当を作り、出勤するのに気持ちよく笑顔で会社に行ってもらいました。笑顔で送り出すというのはどんな時でも口答えせず気持ちよく仕事が出来るようにベストコンディションで仕事をしてもらいたかったです。そのストレスは夫の定年後爆発しました。大喧嘩です。それを乗り越え、今の夫は忘れることが多く別人のように穏やかになり、私を支えてくれています。若い時頑張ったから今があるのだと言い、何気なく優しくしてくれる夫に感謝しております。又味のある夫婦になれたらいいねと呟く今日この頃です。

俳句は毎日、日記代わりに作り、夫に見てもらっています。やっと掴んだ幸せを一日でも長く過ごせたらいいなと二人の間を大事にしたいと思っています。

## 山門や葦酒許さず檉若葉

野村征三郎

娘が孵化したばかりの羽根も出揃わない丸裸な子雀二羽を貰ってきました。見捨てることも出来ず保温、摺餌の手配から

始まり、とにかく二羽とも止まり木に止まるまで育ちました。ところが保温撤去で体力のない一羽が死亡してしまいました。残る一羽はなんとしても野に還すべく、馴化訓練、外敵対策（鴉）、体力・持久力アップを念頭に昼間は屋外に放置しておきました。夕方迎えに行き呼びかけると私の肩へ一直線に戻ってきました。おそらく野生の雀との接触もあり、いろいろ教えられることもあったと思われれます。

夏も終わりがかったころ、葉の影から鳴き声はすれども姿を見せません。こんなことが三日つづくもそれからはその雀は還ることはありませんでした。

## 夏草を刈って草魂残すのみ

狩野優子

昔、不思議な空地があった。百坪余りであろうか、四季折々に優しい雑草が育っていた。タンポポ、母子草や仏の座、花大根、片喰、夏には振花、赤花夕化粧、松葉海蘭等どれも嬉しい丈高い草はなく、蝶やトンボが翅を休めていく。佇めば心穏やかに成れる一人だけの聖地。

ある日突然土が荒々しく掘り起こされ、私の聖地が消えてしまった。大切なものを奪われたような無念さ（人様の所有地なので何の権利もないけれど）悄然としながらも、地中深くきつと草の魂は生きているに違いないと。調和のとれた楽土の草花達が存在していた証として、そして悼みの気持ちを込め一句が成った。

今そこには、パステルカラーのモダンな家が建ち、振花の咲いていた辺りにはブランコが揺れている。

# 作品十句

## 春の川

小野里 勲

現世の影を浮かべて春の川  
子の墓へ花を言葉を彼岸かな  
春風を総身に余生楽しみぬ  
菜の花や野辺に光のたむろして  
夕蛙孤独の声となりにけり  
草を刈る生きる証の音こぼし  
一房のぶどうに絆深まりぬ  
秋蝶の翅を休める大赤城  
遠来のアサギマダラの眠ること  
世の鼓動己のこどう雪催い

### 【俳歴】

小野里 勲（おのざといさお）  
昭和六十三年「石人」入会  
平成十四年「石人」終刊  
現在「言霊俳句会」会員  
第五十三回群馬県文学賞受賞  
〔現代俳句〕令和四年三月号  
作品十句より転載）

## 第五十九回群馬県文学賞

### 俳句部門

#### 「紙風船」

田中恵子

第五十九回群馬県文学賞俳句部門の受賞作品は群馬県現代俳句協会会員の田中恵子さんに決定した。  
受賞作品「紙風船」は日常此事を丁寧な詠い、俳句に真摯に向かう作品である。

春光やゴールポストの運ばるる  
鳥帰る復旧なりし木橋の香  
白南風や隣家に産着ひるがへる  
啄木忌一人遊びの紙風船  
弁当の御菜見せあふ藤の下  
時空間行つたり来たり大昼寝

季語の本意を念頭に、定型とリズムを大切にしつつ新しい素材と表現にチャレンジしている。

（原田要三・作品解説より抜粋）

### 【俳歴】

田中恵子（たなかけいこ）  
平成十二年やまびこ俳句会入会  
平成二十三年秋俳句会入会

# 句集紹介

「温もり」

佐藤 愛子

真つ平な伊勢崎市からの赤城、榛名、妙義の上毛三山の遠望、そんな風土で育まれた温もりの句集である。師についていなかったからこそ束縛がなく、自在と自由であたたかな清明の句風となっている。(堀越胡流)

省略の世界に入りて初明り

畑帰りせし夫からのバラ一輪

糠床をかきませ明日は広島忌

## 新会員紹介

関口 衣子 (桐生市)

山鳩の声聞くや野に春しぐれ

葉鶏頭むかし果てない夢を見し

ぼつぼつと胸の灯りや野水仙

小杉満喜子 (伊勢崎市)

花の下しばし宿りて通り雨

母と居て病室で見る遠花火

丸木橋渡りて夏の山となる

## 会費納入のお願い

群馬県現代俳句協会の年会費(千円)未納の方は、当協会会計幹事までご送金願います。なお、会計年度は、一月から十二月までです。前年度会費未納の方も、併せてご協力のほどお願いいたします。

(問合せ先)

〒三七〇—〇〇〇四 高崎市井野町二六—四

会計幹事 保泉初音 ☎〇二七—三六一—〇二九一

(振込先)

群馬県現代俳句協会

郵便振替口座 00200—5—88603

## 編集後記

▼コロナ、ウクライナと私たちの身の回りには難問が山積しています。解決に糸口の見えないことだけに心も疲弊しがちです。▼定期総会も令和二年から三回に渡り中止となりました。加えてご多分に漏れず会員の高齢化による会員減少という大きな問題を抱えています。▼会員同士の交流の場である吟行会の候補地の前橋市・大室公園を先日、吟行委員が見えました。▼前橋市の東に位置する大室公園は大小十数基の古墳を有する群馬県でも屈指の古墳群、女優の吉永小百合さんがテレビコマーシャルで登場した古墳としても知られています。▼コロナ感染の間隙をぬって参加頂きますよう吟行委員一同張り切っております。▼各種行事に皆様のご健吟をお待ちしています。(河合、石井)

## 群馬県現代俳句協会会報第六十八号

発行日 令和四年(二〇二二年)六月十日

発行人 原田要三

編集責任者 河合秀美

発行所 群馬県現代俳句協会事務局

〒三七六—〇一四三 桐生市黒保根町宿廻九—一七三

電話 〇二七七—九六一—三四九六

印刷 宏誠堂印刷